

# 日銀超緩和策の副作用と財政危機

東短リサーチ社長 加藤 出

- \*物価上昇を阻む超低金利
- \*日銀内部でも目標達成に懐疑的
- \*ますます苦しくなる地域金融機関の収益
- \*次に不景気が来ても金利下げ余地がない
- \*数年後には強烈な円高も想定される
- \*財政刺激策にも国債格下げという足かせ
- \*日・欧米のインフレ格差を生むサービズ価格
- \*相関が薄れてきた失業率と賃上げ率
- \*世界的な金融緩和が起す副作用
- \*待ったなしの課題は山積



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

今日はほぼ1年ぶりで加藤さんにおいていただきます。しばらく経済、それからマーケット、特に第一線のマーケットについてはフォローしておりませんので、今日はマーケットの状況について適切なお話がいただけるのではないかと思います。日銀も新体制になりましたし、黒田さんは続投でございますが、最近はまだし声が聞こえてきません。そういうこともありまして、低成長が続く、インフレ目標も当分達成はできないだろうということで、金融政策は少し手詰まりではないかと思えます。こういった状況が長引いて、市場機能というところでは副作用も大分出ているようにございますので、そういったことも含めまして、これからの金融マ

ーケット、あるいは経済全般についてお話をいただけたらと思います。それでは加藤さんよろしくお願いたします。（拍手）

## 物価上昇を阻む超低金利

**加藤** 今ご紹介にあずかりました東短リサーチの加藤でございます。

日銀の緩和策が長期化しています。これが長期化することである種の弊害が出てくると思えます。特に財政の問題なども、財政規律がまた一段と緩みがちになってきているということも含めてポイントを整理していきたいと思えます。

黒田さんの政策が始まって丸5年以上経ちました。インフレの全体的な状況を最初に見てみ